

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	国内都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	浅岡
		担当者名	齊藤	内線	2522
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（25年度）	国内都市交流事業（01-02-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	● 昭和 ○ 平成 56 年度		根拠		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価 事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	生活環境や地域文化の異なる地域の人々との交流を深めることにより、区民に豊かな自然とのふれあいの場を提供し、区民の心の豊かさと相互の町の活性化を図る。平成17年11月に策定した「荒川区都市間交流に関する取り組み方針」に基づき、国内外の都市との交流を積極的に推進することにより、荒川区の魅力と活力を高め、より豊かな区民生活の実現をめざす。				
対象者等	区民				
内容	H24年度の主な交流事業 ：「24年度川の手荒川まつり」出展都市 秩父市 ：東京荒川少年少女合唱隊が秩父訪問 鴨川市 ：シーフェスタinKAMOGAWA参加（フラダンスグループ「カ・パ・フラ・オ・カ・プア・メリア」出演） 大多喜町 ：大多喜お城まつり参加（天王太鼓つくも会を派遣） 上越市 ：交流都市フェア in 日暮里～上越市がやってくる～実施 北杜市 ：北杜ふるさと祭りに出展者派遣 福島市 ：ミススピーチトップセールス来庁、花もみもある福島フェアを開催、女性団体・町会が訪問、社会教育団体来区 桑折町 ：汐入まつりに出展 石川町 ：春まつり他区内イベントに多数出展 釜石市 ：釜石市へ職員を派遣 村上市 射水市 ：春まつり出展 鮭川村 ：鮭の里親事業、春まつり出展等 福井県 ：水仙娘が来庁、手打ちそば教室実施 二本松市 ：二本松市物産を区役所で販売、花もみもある福島フェアに参加 小野町 ：花もみもある福島フェアに参加 つくば市 ：梅娘区長表敬訪問、春まつり出展等 津南町 三条市 大垣市 ：「まるごとバザール IN 大垣」に出展 米沢市 ：春まつり出展 広尾町 南アルプス市 ：国際交流バスハイク実施				
経過	交流開始順に記載、（ ）内は提携・協定締結年度 秩父市 （旧荒川村）：17.4合併（S56姉妹提携、H7防災協定・21再調印） 鴨川市 ：平成元年（H3友好都市提携・H7防災協定） 大多喜町 ：昭和60年（H7友好都市提携・防災協定） 上越市 （旧吉川町）：17.1合併 昭和62年（H7防災協定） 北杜市 （旧高根町）：16.11合併 昭和58年 福島市 ：平成6年（福島市H18防災協定） 桑折町 ：平成6年（桑折町H23防災協定） 石川町 ：平成6年（石川町H8防災協定） 釜石市 ：平成10年（H11防災協定） 村上市 （旧荒川町）：20.4合併 平成8年 射水市 （旧下村）：17.11合併 平成11年 鮭川村 ：平成15年（H24防災協定） 潮来市 ：平成16年 福井県 ：平成16年 二本松市 （旧東和町）：17.12合併 平成17年 小野町 ：平成17年 つくば市 ：平成18年（H20年5月友好都市提携、H24防災協定） 津南町 ：平成19年 三条市 ：平成15年 つがる市 ：平成16年 大垣市 ：平成19年（H23防災協定） 米沢市 ：平成20年（産業連携協定締結） 広尾町 ：平成21年 成田市 ：平成22年 印西市 ：平成22年 南アルプス市 ：平成24年				
必要性	区民の心の豊かさと相互の町の活性化を図るため必要性が高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員） 一般財団法人東京城北勤労者サービスセンターが実施している交流都市ツアーに対して、補助金を支出。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		1,526	2,987	2,630	2,136	1,427	9,832	1,825
決算額（25年度は見込み）		491	2,002	1,884	1,601	837	9,741	1,825
人件費等		3,843	2,965	3,828	4,360	6,098	5,535	
減価償却費					1,453	2,239	2,162	
【事務分担量】（％）		45	35	47	50	72	67	
合計（＋＋）		4,334	4,967	5,712	7,414	9,174	17,438	1,825
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		4,334	4,967	5,712	7,414	9,174	2,005	1,825
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	交流都市数	21	22	23	25	25	26	—

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	まつりの出店経費	240	まつりの出店経費	318	まつりの出店経費	361
	職員旅費	交流事業調整、まつり参加	96	交流事業調整、まつり参加	111	交流事業調整、まつり参加	286
	食糧費	交流都市等訪問時賄い	107	交流都市等訪問時賄い	93	交流都市等訪問時賄い	140
	一般需用費	交流事業調整、まつり参加土産	60	交流事業調整、まつり参加土産	70	交流事業調整、まつり参加土産	494
	委託料	福井そば打ち体験	150	福井そば打ち体験等	490		0
	使用料及び負担金及び	バス借り上げ等	0	バス借り上げ等	801	バス借り上げ等	221
		交流事業補助	184	交流事業補助	7,858	交流事業補助	323

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
	交流都市数	25	25	26	26	26	
	交流事業実施都市数	24	21	22	26	26	

（問題点・課題 指標分析）	より多くの都市と幅広い交流ができるよう、他課とも連携した事業実施について検討を行う必要がある。行政間の交流は活発に行っているが、区民等による交流の機運を高めるための取り組みも必要である。
他区の実 施状況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
	各交流都市や庁内各部の意向をふまえ、相互にとって実施効果の高い交流内容・事業について検討する。	産業振興や観光振興、地域の活性化等につながるような事業のしくみづくりを行う。
	東京城北勤労者サービスセンターが実施する交流都市ツアーなど、区民同士の相互交流が可能な事業の実施に向けて、各都市と調整を行う。	訪問バスツアーをはじめとして、産品・グリーンツーリズムなど、各都市の魅力を実感し、その後の交流に結びつくような事業を企画・検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
重点的に推進	重点的に推進	生活環境や地域文化の異なる地域と交流することにより、まちの魅力と活力を高める。

議 会 要 旨 問 答 状 況	都市間交流のあり方について、今後の方向性。（24年2定）
--------------------------------------	------------------------------

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	国際交流協会補助		部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	浅岡
			担当者名	関	内線	2524
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（25年度）			国際交流協会補助（01-03-01）			
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業		● それ以外の継続事業	
開始年度	○ 昭和 ● 平成 5 年度		根拠	荒川区国際交流協会補助金交付要綱		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等	設立趣意書		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画		
行政評価 事業体系	分野	文化創造都市[]				
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]				
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]				
目的	区民の国際交流活動の拠点として国際交流事業を推進し、外国都市との友好親善と区民の国際理解を深めながら荒川区の国際化を図り、荒川区を世界に開かれた夢のあるまちとすることを目的とする。（協会会則第3条）					
対象者等	荒川区国際交流協会					
内容	荒川区国際交流協会の概要、人数等は25年5月現在 設立 平成5年10月21日 組織 理事12人、事務局5人（区職員兼務）、監事2人 会員 賛助会員：115件（団体・企業21件、個人94人）協力会員：584人（日本人536人、外国人48人） 事業（開始年度）、人数等は24年度実績 ○ 在住外国人支援事業 ・外国人のための日本語教室（13年度：5～12年度では区事業）…年間132回（66回×2コース） ・留学生等への生活用品支援（6年度）…年2回（4月・10月）会員等からの寄付品を日本語学校等に配付 ○ 世界の国々との交流事業 ・オレゴン州立大学研修生受入（13年度）…1人、ウィーン大学研修生受入（17年度）…2人 ・ドナウシュタット区の高校生受入（6年度）…5人、ドナウシュタット区への高校生派遣（9年度）…5人 ・日暮里ファッションショーへの大連市中山区代表団参加（18年度） ○ 区民相互の交流事業 ・川の手荒川まつり参加（6年度）…世界の料理販売と協会パンフレット等の配付 ・日本語スピーチコンテスト（7年度）…発表者16人、ボランティア約20人 ・防災講座（21年度）…18人（対象：日本語教室受講生） ・国際交流サロン（6年度）・着付教室（14年度）…浴衣の着付け・盆踊り参加、27人 ・国際交流バスハイク（6年度）…訪問交流都市：南アルプス市、参加者：42人 ・茶道教室（13年度）…月10回、延べ97人 ・華道教室（23年度）…年4回、延べ45人 ○ 国際理解事業 ・日本語サロン（10年度）…週1回×2コース、ボランティアによる自主運営 ・日本語ボランティア養成講座（6年度）…36回（18回×2コース）、受講者27人（昼16人、夜11人） ○ 広報調査事業 機関紙の発行（5年度）…ライフサポートニュース（年1回）、事務局だより（月1回） ○ その他 産業展出演、ボランティア通訳の派遣、翻訳、公共・民間等主催事業の共催・後援・協力など					
	経過	自主財源率（会費及び事業収入等）の推移 12年度までは総収入の15%程度、15年度以降は45%（補助金減、賛助会員や受益者負担の増による） 17年度は済州市、大連市中山区との友好都市提携に伴う、区補助金増のため38%となり、以後18年度41.8%、19年度37.2%、20年度32.7%、21年度36.7%、22年度37.6%、23年度31.7%、24年度31.3%である。				
必要性	国際交流事業や在住外国人への支援、地域の外国人との交流を推進し、区民の国際理解を深めるとともに、多様な文化が共生できる地域社会を実現するため、団体への支援は不可欠である。					
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員） 協会の派遣依頼により、区民生活部長は事務局長、課長は事務局次長、都市交流係員は事務局員を兼職。					

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額		6,547	6,247	6,147	6,147	5,147	6,147	6,147
決算額（25年度は見込み）		4,382	5,857	5,603	4,950	3,343	4,636	6,147
人件費等		11,102	11,011	10,587	11,336	11,010	10,739	
減価償却費						4,043	4,195	
【事務分担量】（%）		130%	130%	130%	130%	130%	130%	
合計（+ +）		15,484	16,868	16,190	16,286	18,396	19,570	6,147
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		15,484	16,868	16,190	16,286	18,396	19,570	6,147
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	協力会員（人数）	348	325	382	428	502	584	
	賛助会員（件数：団体+個人）	104	101	106	129	94	115	
	補助金の協会事業に占める割合	62.8%	67.3%	63.3%	62.4%	68.3%		

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補助及び交付金	国際交流協会補助	3,343	国際交流協会補助	4,636	国際交流協会補助	6,147

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度（見込み）	目標値（26年度）	
	協力会員・賛助会員数	557	596	699	700	730	個人＋団体数
	協会事業参加者数	3,315	2,981	3,613	3,750	3,900	日本語教室等は延べ人数

（問題点・課題分析）	・国際交流協会の事業などを積極的にPRすることによって、参加者、協力会員、賛助会員を増やし、協会の自主財源率の向上に努め、財政基盤を確たるものとする必要がある。 ・外国人区民が、生活を送る上で必要な支援をスムーズに受けられるよう、積極的に支援していく必要がある。 ・外国人区民と区民が、相互理解を深める契機となる事業の継続、交流の場の提供を行っていく必要がある。
他区の実況	（実施 8 区 未実施 14 区） 東京都国際交流団体連絡会議

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
	国際交流協会のホームページや事務局便り、区営掲示板を活用し、実施事業の周知を図り、協会事業への継続的な参加者を増加させる。また、賛助会費とそれぞれの事業に見合った参加費負担を継続し、協会の自主財源率の向上を図る。	平成25年度の取組みを踏まえて、国際交流協会のホームページや事務局便り、区営掲示板をより積極的に活用し、実施事業の周知を図り、賛助会員と協会事業への継続的な参加者を増加させる。
	外国人のための生活便利帳を配付し、外国人区民の生活を支援するとともに、外国人区民が参加しやすい事業やイベント内容を検討する。	平成25年度の取組みを踏まえて、外国人のための生活便利帳を更新するとともに、事業やイベントを継続していく。
	区民、ボランティアの協力を得て、料理教室やバスハイク等、外国人住民と区民が一緒に参加できるイベントを継続して行い、共助の関係作りを支援する。	平成25年度の取組みを踏まえて、具体的な取組みを実施していく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
重点的に推進	重点的に推進	区民主体の国際交流の推進母体として区が重点的に支援することが必要である。

況議（要質問状）	
----------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	海外都市交流事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	浅岡
		担当者名	関	内線	2524
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）		海外都市交流事業（01-03-02）			
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
開始年度	○ 昭和 ● 平成 5 年度		根拠	友好都市提携協定	
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等	国際化推進員設置要綱	
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	海外都市に対する区民の関心を高めることにより、世界に開かれたまちとしての荒川区の魅力や活力を高めるとともに、産業交流等により区内の優れた技術や製品を広くアピールする。（荒川区都市間交流に関する取り組み指針）				
対象者等	・ドナウシュタット区（オーストリア共和国ウィーン市）…平成8年10月21日提携（荒川公園に桜を植樹） ・済州市（韓国済州道）…平成18年2月17日提携 ・中山区（中国大連市）…平成18年3月10日提携 ・コーバリス市（アメリカ合衆国オレゴン州）提携調印は無し				
内容	海外友好都市等との都市間交流、連絡、調整及び相互訪問等 ・ドナウシュタット区：高校生相互派遣（国際交流協会主管）、ウィーン大学生の荒川区での研修受入 ・済州市：区民ツアー、済州市研修生受入、ＡＢＣ卒業生の短期派遣、ドルブルへの参加 ・中山区：区民ツアー、産業交流（日暮里ファッションショー）、ＡＢＣ卒業生の短期派遣 ・その他：オレゴン州立大学研修生受入				
経過	<ドナウシュタット区> 4年度 児童生徒絵画展 5年度 荒川区長ドナウシュタット区(以下、ド区)訪問 6年度 ド区高校生受入（以後11、14、23年度を除き毎年実施） 7年度 荒川少年少女合唱隊ド区訪問（以後23年度に提携15周年記念で再訪） 8年度 友好都市提携調印・ド区長来区 9年度 荒川区高校生ド区へ派遣（以後23年度を除き毎年） 13年度 提携5周年記念荒川展ド区で開催、南千住駅東側にドナウ広場、ドナウ通り完成、ド区に荒川通り開通、区民ツアー(協会事業:以後18年度に提携10周年、23年度に提携15周年記念ツアー実施)、交流壁画 14年度 ド区代表团を迎えドナウ広場で彫刻「ドナウの調べ」除幕 20年度 荒川区代表团訪問、ド区訪問団来日（コンサート開催、お菓子教室開催、産業展へ参加） 21年度 日唄修好140周年事業(在日日本大使館で荒川区展を開催予定だったが、新型インフルエンザ流行で中止)				
	<済州市> 17年度 済州市市制施行50周年記念式典に荒川区議会副議長他出席、両区・市長の相互訪問（以後18年度実施）、荒川区にて済州写真展開催（18年度は済州市で荒川区写真展開催） 18年度 区民ツアー（協会事業：以後22年度に実施） 19年度 済州市職員研修生の受入(以後25年度を除き毎年実施) 20年度 荒川区高年者クラブ連合会と済州市老人会との相互訪問・交流（以後21年度も実施）、トルハルバン除幕式、済州市長代表団の受入（以後22年度を除き毎年実施）、ドルブルへの代表团派遣 21年度 荒川区高年者クラブ連合会と済州市老人会との友好提携調印式、ABC職員短期派遣				
	<大連市中山区> 17年度 両区長の相互訪問、荒川区産業展において大連文化展開催（以後18年度も実施） 18年度 友好都市提携調印（中山区）、代表团相互訪問、日暮里ファッションショーへの参加（以後23、24年度を除き毎年実施）、荒川区にて少年野球チーム交流試合（大連ウィーク）、区民ツアー（協会事業：以後19年、22年度実施） 21年度 大連市中山区職員研修生受入、ABC職員短期派遣 22年度 友好提携5周年区民ツアー（大連・上海）				
	<コーバリス市> 4年度 児童生徒絵画展（以降7年度まで相互開催） 5年度 コーバリス市長夫妻荒川区訪問 6年度 荒川区長コーバリス市訪問、荒川区職員研修生コーバリス市派遣 9年度 オレゴン州立大研修生受入（15年度を除き毎年1名(11年度は2名)来日） 9年度以降の交流は大学のみ				
	必要性 荒川区を世界に開かれたまちとして、産業・観光・芸術文化・スポーツなどの広範な分野にわたる交流を深めていく必要がある。				
	実施方法 (1直営) (直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員) ウィーン大学・オレゴン州立大学研修生の受入を除き、交流事業は基本的に荒川区国際交流協会が実施。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	予算額	16,292	15,388	12,689	12,500	16,954	9,847	12,576
	決算額（25年度は見込み）	10,279	12,954	9,674	11,263	15,713	9,479	12,576
	人件費等	5,124	5,082	3,583	3,488	2,541	2,478	
	減価償却費					933	968	
	【事務分担量】（％）	60%	60%	40%	40%	30%	30	
	合計（ ＋ ＋ ）	15,403	18,036	13,257	14,751	19,187	12,925	12,576
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
実績推移	その他（特定財源）							
	一般財源	15,403	18,036	13,257	14,751	19,187	12,925	12,576
	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	海外出張旅費支出人数	9	11	3	13	4	3	5
	海外受入・訪問団体数	3	5	4	2	1	1	3

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	国際交流推進員報酬	7,909	国際交流推進員報酬	8,028	国際交流推進員報酬	8,087
	共済費	国際化推進員社会保険料	1,061	国際化推進員社会保険料	1,105	国際化推進員社会保険料	1,143
	旅費	交流都市訪問等	1,300	交流都市訪問等	290	交流都市訪問等	1,920
	食糧費	訪問団等贈い	200	訪問団等贈い	0	訪問団等贈い	900
	一般需用費	交流都市訪問団贈・記念品	14	交流都市訪問団贈・記念品	35	交流都市訪問団贈・記念品	210
	役務費	翻訳・通訳	185	出張旅費	9	翻訳・通訳	228
	委託料			非常勤職員健診費	11		
	使用料	携帯レンタル・バス借上げ	50	携帯レンタル	1	携帯レンタル・バス借上げ	88
	負担金及び交付金	合唱隊ウィーン派遣補助金	4,995				

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
標	訪問回数	3	3	3	5	5	荒川区 交流都市
	受入回数	4	2	3	5	5	交流都市 荒川区

(問題点・課題)	問題点・課題	友好交流都市であるウィーン市ドナウシュタット区、済州市、大連市中山区との交流について、広く区民に交流実績及び交流意義についてPRしながら、継続的な交流事業を推進していく必要がある。					
	他区の実況	(実施 21 区 未実施 1 区)					
	姉妹・友好都市提携状況						

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
	・ドナウシュタット区との交流 荒川区国際交流協会事業のウィーン高校生相互派遣事業を支援しつつ、広く区民に交流実績をPRしながら継続的な交流事業を推進していく。	・ドナウシュタット区との交流 荒川区国際交流協会事業のウィーン高校生相互派遣事業を引き続き支援しつつ、25年度の取り組みを踏まえ、広く区民に交流実績をPRしながら継続的な交流事業を推進していく。
	・済州市との交流 NPO法人荒川区高年者クラブ連合会の民間交流や視察希望者等を支援しつつ、広く区民に交流実績をPRしながら継続的な交流事業を推進していく。	・済州市との交流 NPO法人荒川区高年者クラブ連合会の民間交流や視察希望者等を引き続き支援しつつ、25年度の取り組みを踏まえ、広く区民に交流実績をPRしながら継続的な交流事業を推進していく。
	・大連市中山区との交流 大連市の小学生や産業関係者などの視察希望者を幅広く受け入れつつ、広く区民に交流実績をPRしながら継続的な交流事業を推進していく。	・大連市中山区との交流 大連市の小学生や産業関係者などの視察希望者を引き続き受け入れつつ、25年度の取り組みを踏まえ、広く区民に交流実績をPRしながら継続的な交流事業を推進していく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
重点的に推進	重点的に推進	
		国際理解、文化振興のため大きく貢献する事業である。

議決(要旨)	
--------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

様式3

No1

事務事業名	あらかわキャラバン事業	部課名	区民生活部文化交流推進課	課長名	浅岡
		担当者名	伊藤	内線	2522
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（25年度）	あらかわキャラバン事業（01-07-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 20 年度		根拠		
終期設定	● 有 ○ 無 25 年度		法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画	
行政評価 事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	国内・海外都市との交流の推進[09-02]			
目的	荒川区と交流都市との交流は、双方の地域の祭りに参加するなどして、名産品の紹介・販売や、人と人との交流は図られてきたが、芸術・芸能・文化面で各都市を代表する団体・個人の交流は十分ではないため、キャラバンとして区を代表する団体・個人を交流都市等へ派遣し、交流・公演をすることにより、区の芸術文化面を紹介するとともに、区民の芸術文化活動を促進する。				
対象者等	荒川区内で、交流都市へ出かけて文化・交流事業を展開できる団体及び個人。				
内容	派遣団体は、キャラバン隊として5年程度の間、毎年、異なる交流都市に出向いて、交流活動を行う。区は、交流都市との調整を実施するとともに派遣に必要な交通費、宿泊費等の必要経費を負担する。 21年度まで国内都市交流事業として区内団体を派遣していた鴨川市及び大多喜町との交流事業について、22年度から事業を組み替え「あらかわキャラバン事業」として実施。				
経過	東京荒川少年少女合唱隊の派遣 交流都市の合唱団とジョイントコンサートを実施するなど、合唱隊同士の交流事業に参加。 ○平成20年度開始（つくば市） 平成21年度：福島市、22年度は震災により鴨川市への派遣中止 ○平成23年度：釜石市にて、 特養老人ホームあいぜんの里コンサート、 釜石合唱協会交流コンサート、 釜石シーブラザコンサート 等 ○平成24年度：秩父市にて、 特養老人ホームほのぼのマイタウンコンサート、 秩父市内小学校合唱部との交流コンサート 等 区内ダンスグループの派遣 ○平成21年度～：鴨川市へ派遣 太鼓団体の派遣 ○平成20年度～：大多喜町へ派遣 キャラバン事業開始以前より、派遣を実施				
必要性	荒川区を広く紹介し、区の文化振興を図るために必要な事業である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算額			882	1,824	1,796	1,986	1,219	1,404
決算額（25年度は見込み）			701	1,316	120	1,379	1,127	1,404
人件費等			2,710	2,850	2,616	2,964	2,726	
減価償却費					872	1,089	1,065	
【事務分担当】（％）			32	35	30	35	33	
合計（＋＋）		0	3,411	4,166	3,608	5,432	4,918	1,404
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		0	3,411	4,166	3,608	5,432	1,918	1,404
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	派遣団体数	0	2	3	1	2	3	—

事務事業分析シート（平成25年度）

様式3
No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	指導料等	114	団体派遣報償費	114	指導料等	214
	旅費	職員旅費	125	職員旅費	40	職員旅費	65
	食糧費	食糧費	0	食糧費	55	食糧費	130
	一般需用費	記念品、消耗品等	28	記念品、消耗品等	20	記念品、消耗品等	50
	その他の通信運搬費	キャラバン隊交通費	516	キャラバン隊交通費	69	キャラバン隊交通費	25
	保険料	保険料	13	保険料	15	保険料	28
	使用料及び賃借料	バス借上げ・宿泊料	583	バス借上げ・宿泊料	814	バス借上げ・宿泊料	892

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
	参加団体等の数	1	2	3	3	4	あらかわキャラバン隊として参加する団体の数
	訪問都市数	1	2	3	3	4	キャラバン隊が訪問する交流都市の数

（問題点・課題 指標分析）	キャラバン隊として区を代表して活動を行う団体の発掘を行っていく必要がある。 荒川区を代表する団体・個人を選ぶため、キャラバン隊のあり方や選考基準を検討する。 派遣先となる交流都市についても広く募っていく必要がある。
他区の実 施状況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
	A C C や社会教育課等からの情報収集に努める。	キャラバン隊としてふさわしい個人・団体を発掘する。
	キャラバン隊のあり方や選考基準を検討する。	荒川区を代表して、区のPRにつながるような団体・個人をキャラバン隊に選出するための基準や選考について検討する。
	交流都市に、受入体制の有無、協力の可能性等について意向調査を実施する。	各都市の受入の状況、要望に応じて、派遣団体の選考を行い、派遣先の拡充を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	芸術文化面で区を代表する個人・団体を交流都市に派遣し、交流促進とともに芸術文化振興を図る。

議 会 質 問 状 況 （ 要 旨 ）	
--	--